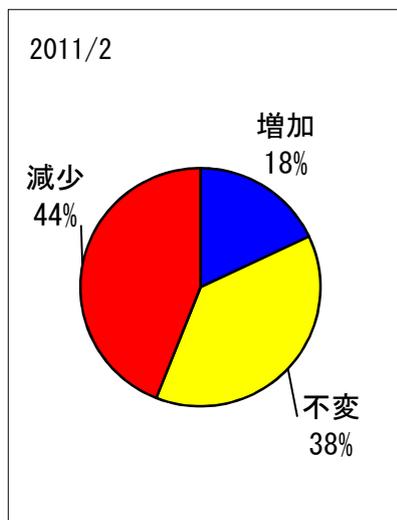
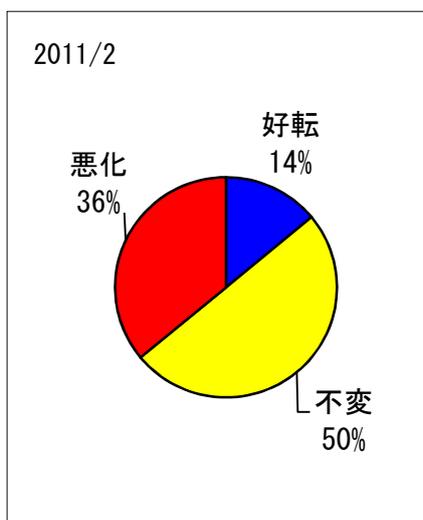


データから見た業界の動き (平成24年2月分)

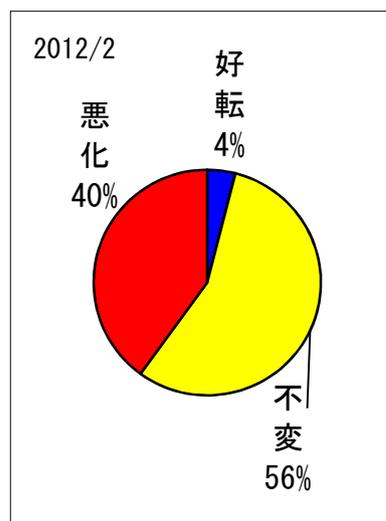
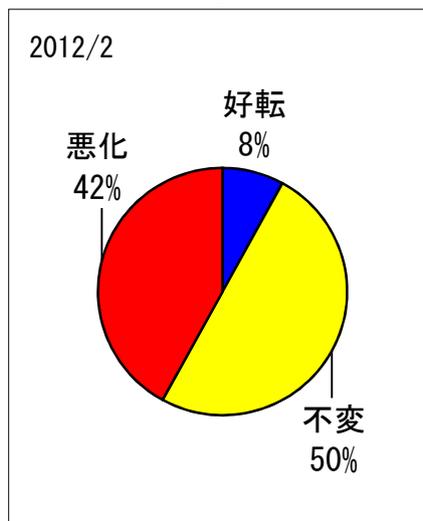
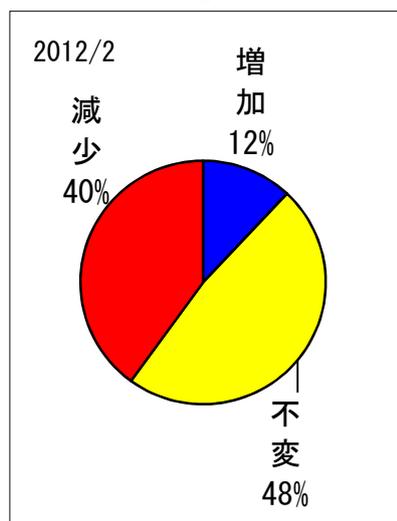
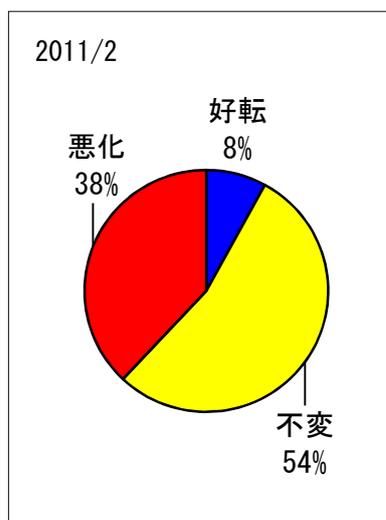
売上高 (前年同月比)



収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	11/2	12/1	12/2	11/2	12/1	12/2	2011/2	2012/1	2012/2
対前年,前月,当月									
売上高	-40	-40	-25	-23	-27	-30	-30	-32	-28
収益状況	-40	-40	-40	-30	-27	-30	-34	-30	-34
景況感	-35	-35	-45	-27	-27	-30	-30	-32	-36

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

■ 概 況

本県の2月の景況は、全業種のDI値が、売上高-28（前年同月比+2）、収益状況-34（前年同月比±0）、景況感-36（前年同月比-6）となった。業種別のDI値では製造業で、売上高-25（前年同月比+15）、収益状況は-40（前年同月比±0）、景況感-45（前年同月比-10）。非製造業で、売上高-30（前年同月比-7）、収益状況-30（前年同月比±0）、景況感-30（前年同月比-3）となっている。

前月比の全体では、売上高のDI値が4ポイントの改善となったが、収益状況と景況感はともに4ポイントの悪化となっている。

業種別では、製造業の売上高でDI値が15ポイントの改善が見られ、収益状況は横這い、景況感10ポイントの悪化となった。非製造業では、全ての項目で3ポイントの悪化となっている。

情報連絡員による県内各業界の景況は、2月も全体的に、低調さが目立つ報告となっているが、製造業の一部の業種では、2月の売上が比較的好調であったとする報告や、緩やかであるが業況が回復傾向に向かっているなど、明るい報告も見受けられた。

また、製造業、非製造業ともに、依然として、円高の影響から資材、燃料等の値上がりから苦戦を強いられる業種の報告も多く、今後の見通しについても、厳しい状況のまま推移していくと予測する報告が目立っている。

■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測（売上高・原材料等経費・資金繰りなど）についてコメントを求めた。

【製造業】

- 食料品（水産物加工）／年明け以降消費マインドが低下している感が強い。
- 食料品（洋菓子製造）／消費低迷、円高による輸出減。バレンタイン関連商品も低調。
- 食料品（ワイン）／組合員13社が参加してK O J（甲州ワインEU輸出プロジェクト）甲州ワインの試飲会をロンドン、パリで2月19～26日まで実施してきた。
- 繊維・同製品（織物）／2月も寒さが続き、春物の動きは非常に悪かった。東京ビックサイトでの「ギフトショー春2012」は、前年より入場者数も増え商談件数も多かった。また、産地に商談に来るバイヤーが増えている。
- 木材・木製品製造／木材の販売は去年よりは良かったが、プレカットの加工量は大幅に減少した。今後も低調のまま進んでいくと予測され、何か手を打たないと大手のハウスメーカー主体の住宅環境になってしまう恐れがある。
- 紙・紙加工品／昨年の3.11以降、景気は落ち込んだまま回復の兆しは見えない。重油の値上がりと4月以降の電気料金の値上げ発表は今後業界にとって痛手となる。
- 窯業・土石（砂利）／今月は生コンクリートを使用する工事が少なく、売上が大幅に減少した。しかし、中部横断自動車道やリニア工事、他に道路や橋梁取付工事など付帯工事もあり見通しは明るい。
- 窯業・土石（生コン）／全体的には先月同様に、リニア延伸工事に加え甲府地区の大型箱物工事、中部横断道により出荷量は増加したものの、納入地区が限定的なため峡北及び峡西地区では前年割れとなっている。リニア工事以外の需要については、官需が全体の8割強を占めており、今後は公共工事の行方にかかる。
- 鉄鋼・金属(1)／自動車関連は、上昇傾向にあり、半導体関連も徐々に回復傾向にある。
- 鉄鋼・金属(2)／前年は、2月までは回復傾向にあった。昨年、10、11月ごろより各社業況は悪化。自動車関連についても業況は悪化中。

- 電気機器／工業団地全体でも仕事量が著しく低い。
- その他(宝飾品(1))／展示会の売上げが昨年対比で3割減で推移している。中国の景気に陰りが出ている。
- その他(宝飾品(2))／2月の売上は好調であったが、3月は厳しくなると予想される。業界内も「良い」と言うところはなく、安定していない状況。

【非製造業】

●卸売（ジュエリー）／1月に開催した「国際宝飾展」での売上は前年より減少。2月に香港で開催した「香港フェア」も中国経済の悪化により中国人バイヤーの仕入は減少した。4月の甲府ジュエリーフェアに向け新商品の作り込みに追われ製造業者は多少忙しくなっている。

●小売（SC）／2月は寒い日が続き、来街客数は少なかった。

●小売（青果）／入荷状況は順調だが、価格が高く卸・小売業者ともに苦戦している。また、県外資本の大型店における安売り合戦の影響もあり、県内のスーパーや小売店は非常に厳しい状況にある。

●小売（食肉）／山梨県における食肉業界の組合員数は、後継者不足及び経済的事由により減少の一途をたどっている。

●小売（電機製品）／2月の県内売上は、前年比70.0%。商品別では前年比テレビ18.5%、エアコン105.0%、冷蔵庫前年比96.7%、LED照明160台、太陽光発電21契約。テレビ台数が大幅に落ち込んで上、売価も更に下落してきた。量販店を対象に毎月行っている公正取引協議会への報告事項のなかで、価格は「係員にご相談ください」「更にポイント進呈」と表示され実売価は店頭に行かないと判断できない。21通の差別対価の申告を行った。量販店、地域店、メーカーも含め体力勝負の環境、ハードプラスソフトの両面での販促活動で生き残りをかけている。当組合も独自の家電製品延長保証制度の導入を図り1～2月で12店23契約の延長契約を上げた。

●小売（事務機文具）／リーバースオークションが公共工事にも適用されるとの報道に、ますます景気悪化に繋がると懸念する。競争性を高め経費節減に努めるとの説明だが、大手企業や資本力のあるところが勝ち、中小企業の経営が圧迫される制度であると懸念される。

●小売（石油）／イラン情勢の緊迫化に伴い原油コストの上昇と円安ドル高によりガソリン、軽油、灯油の元売各社の値上げにより県内SSも5円程度の値上げを行った。3月は、イラン情勢の悪化により中東原油が高騰しているため今後も小売価格は上昇する見込み。

●宿泊業(1)／例年になく寒い冬となり観光、ビジネスともに集客は減少した。長引く不況や円高もあり海外からの観光客も少なく厳しい月となった。しかし、3月下旬から5月末まで中国からの観光客の予約が若干入り始めた。また、福島第一原子力発電所の事故によりキャンセルとなった外国人宿泊予約に対する賠償も始まったようで、東日本大震災から1年、ようやく動き出した。

●美容業／デフレ傾向の中、低料金店が売上を伸ばしている。消費者は格安な店に流れる傾向にある。また、若年層はフリーパーパーで値引きチケット等を利用する傾向にある。既存の美容院はますます厳しい状況にある。

●廃棄物処理／組合員の会費滞納や脱退者が目立つ。今後は、増税問題や電気料金の値上げ、燃料高騰、一方で経済や産業の不安定などで八方ふさがりの状況にある。当業界は、社会情勢に左右されることが多く積極的な活動ができない。

●警備業／年度末で公共事業の駆け込み発注が多く受託量は増大している。単発的であるが土木事業を中心に業務量は増大傾向にある。好況感が認められるが、長期的には業務量が継続しないことが懸念される。

●建設業（型枠）／公共・民間工事とも発注量は増加傾向にあり、県外工事の見積依頼も増えている。工事単価はまだ安い、県内の型枠職人も不足しており、採算面や工事内容により受注物件を見極めることにより工事単価を上昇させたいと考える。

●設備工事（管設備）／給水装置工事に関連する県内の新設住宅着工戸数は、昨年12月時点で前年同月比15.9%減。また、公共工事も減少しており厳しい状況が続いている。県内の仕事量が少ないため一部の組合員は被災地での建設関連業務に従事している。昨年対比で売上高は伸びているが景気が回復したわけではない。今後は、水道管の耐震化、鉛管対策などへの大幅な行政予算割当てを期待している。

- 運輸（タクシー）／燃料の高騰により、ますます経営が苦しくなっている。社員教育でアイドリングストップを実行するよう指導しているが、寒い日は車内が冷え切っているため、お客様からのクレームもあり対応に苦慮している。
- 運輸（バス）／今までにない仕事量の減少、燃料代の高止まりなどが、経営を圧迫している。
- 運輸（トラック）／まだまだ円高の状況にあり、輸出全体が冷え込んでいる。燃料価格の値上がりにより、経営が厳しくなっている。